

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和 3 年 1 月～ 3 月実 績

令和 3 年 4 月～ 6 月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的

この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法

経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区

あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数

165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数

165企業（回答率100％）
6. 調査対象期間

令和3年1～3月期実績及び令和3年4～6月期見通し
7. 調査時点

令和3年3月1日（月）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率（％）
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.5%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

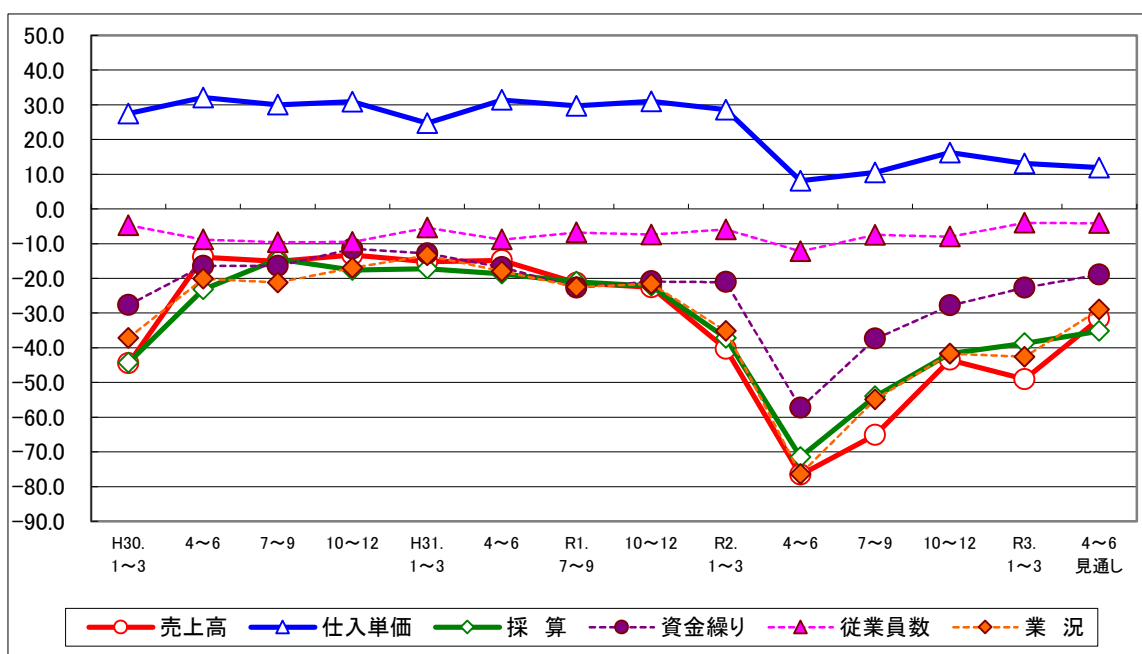
DI（数式）＝（上昇企業数－低下企業数）÷ 回答企業数 × 100

10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所長 教授 南保 勝 氏

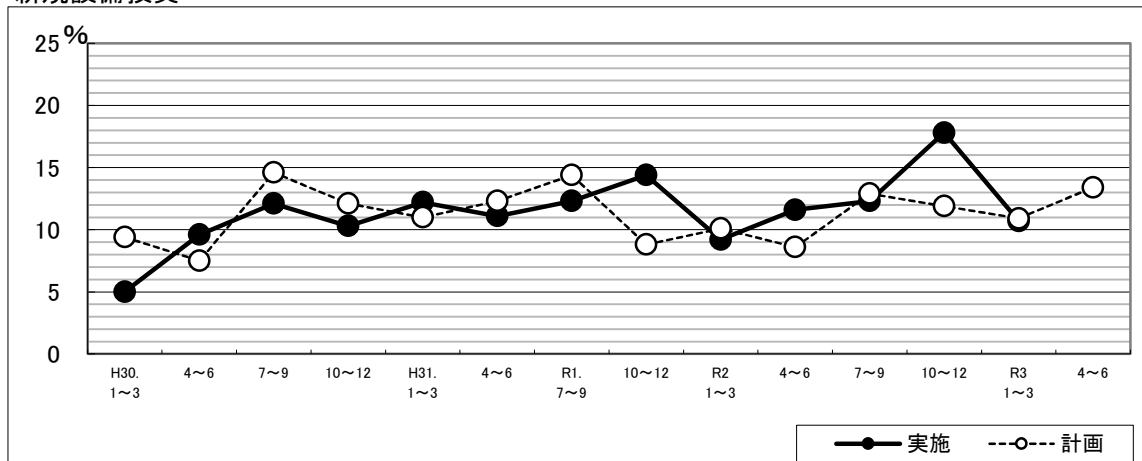
全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向推移(前年同期比:DI値)

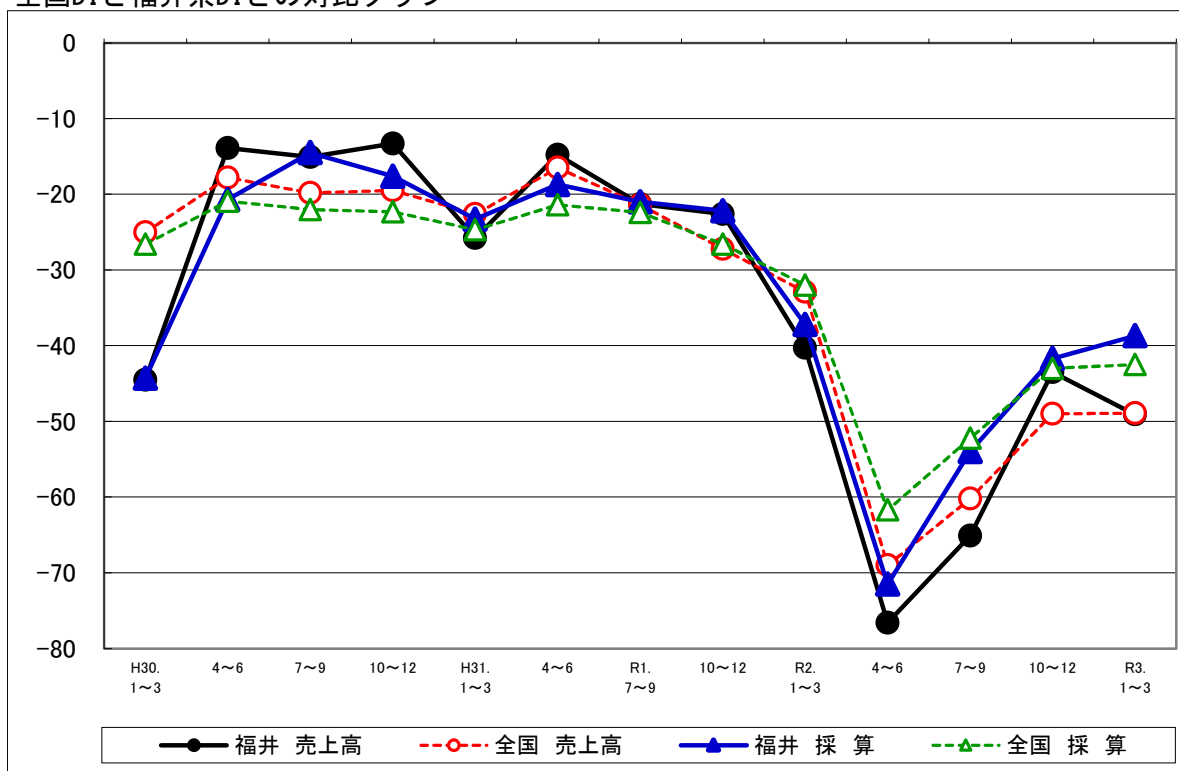
期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
H30.1～3	▲ 44.5	27.5	▲ 44.3	▲ 27.7	▲ 4.7	▲ 37.2
4～6	▲ 13.9	32.1	▲ 23.2	▲ 16.4	▲ 8.8	▲ 20.1
7～9	▲ 15.1	30.0	▲ 14.5	▲ 16.4	▲ 9.6	▲ 21.2
10～12	▲ 13.3	30.9	▲ 17.6	▲ 11.5	▲ 9.5	▲ 17.0
H31.1～3	▲ 15.2	24.7	▲ 17.2	▲ 12.8	▲ 5.4	▲ 13.4
4～6	▲ 14.8	31.4	▲ 18.7	▲ 16.8	▲ 8.8	▲ 18.0
R1.7～9	▲ 21.3	29.7	▲ 21.0	▲ 22.7	▲ 6.8	▲ 22.5
10～12	▲ 22.6	31.0	▲ 22.2	▲ 20.9	▲ 7.4	▲ 21.6
R2.1～3	▲ 40.3	28.6	▲ 37.2	▲ 21.1	▲ 5.9	▲ 35.2
4～6	▲ 76.6	8.1	▲ 71.5	▲ 57.3	▲ 12.2	▲ 76.4
7～9	▲ 65.1	10.5	▲ 54.0	▲ 37.4	▲ 7.5	▲ 54.9
10～12	▲ 43.5	16.2	▲ 41.7	▲ 27.8	▲ 8.0	▲ 41.7
R3.1～3	▲ 49.1	13.1	▲ 38.7	▲ 22.7	▲ 4.0	▲ 42.6
4～6見通し	▲ 31.6	11.9	▲ 35.2	▲ 18.9	▲ 4.1	▲ 29.0



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R3年1～3月期の福井県経済を概観すると、需要面では、新型コロナウイルス感染症の拡大により観光・レジャー、飲食・サービスなどは極めて厳しい状況が続いているものの、食品スーパー、ドラッグストア、ホームセンターなどでは巣ごもり需要をキャッチし売上を伸ばす例もみられた。また、供給面では、4～6月期をボトムに、その後、電子部品・デバイス、自動車関連需要の復活などから、多くの業種で持ち直しの動きを強めている。そのため、同期間の福井県経済は、全体として業種・業態間の格差を伴いつつも、緩やかに持ち直しているといえる。

こうした中、今期（R3年1～3月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち、売上高と業況を除いて改善の動きを強めている。ちなみに、項目ごとのDI値をみると、売上高が前期43.5から今期49.1へ、業況が前期▲41.7→今期▲42.6へと悪化。改善項目では、仕入単価（逆指数）が前期16.2→今期13.1、採算が前期▲41.7→今期▲38.7、資金繰りが前期▲27.8→今期▲22.7、従業員数が前期▲8.0→今期▲4.0となっている。また、先行き（R3年4～6月期）については、5項目で改善予測、1項目で僅かながら悪化予測となっており、こうした状況から、来期においても概ね現状維持或いは持ち直しの動きで推移することがうかがえる。

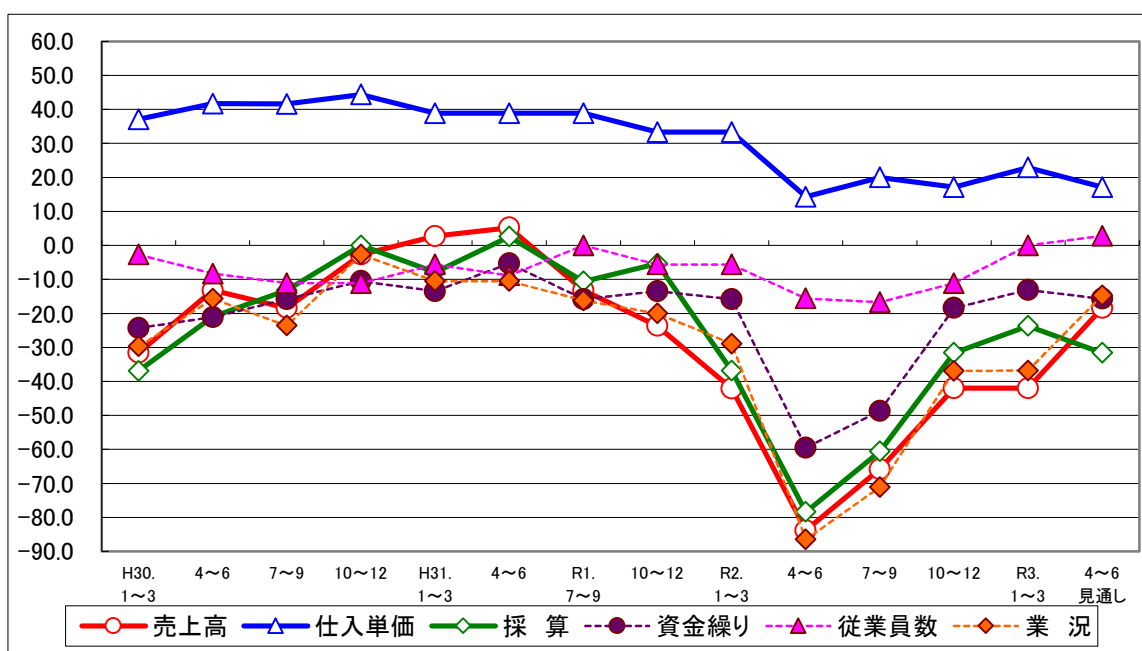
一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、採算で全国、福井県ともに改善傾向となっているが、売上高は全国の横這いに対し福井県は悪化傾向となっており、引き続き余談を許さない展開にあることがうかがえる。

そのほか、今期の新規設備投資については、設備投資を計画している企業ウエイト10.9%に対し実施した企業ウエイト10.7%と、ほぼ予定通りの投資状況となっているほか、先行き（R3年4～6月期）については、何らかの投資を計画する企業ウエイトが13.4%と、投資マインドがやや向上することが予想される。

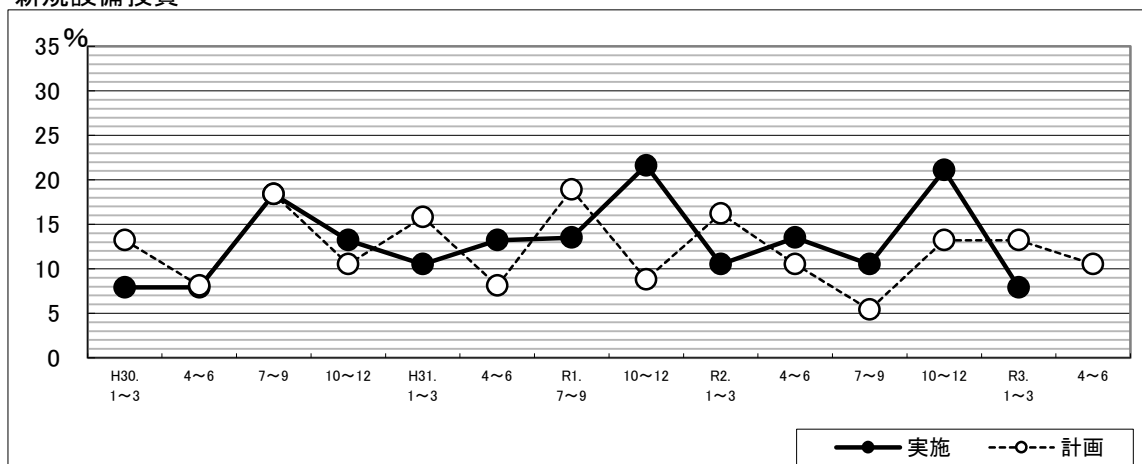
製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

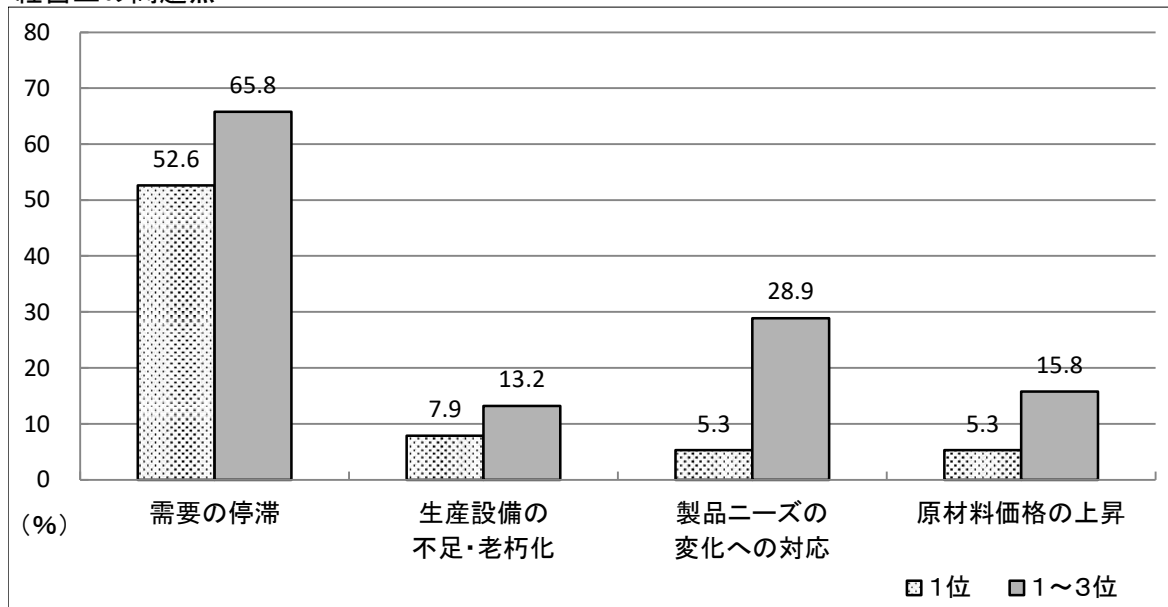
期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
H30.1～3	▲ 31.6	37.1	▲ 36.9	▲ 24.3	▲ 2.7	▲ 29.7
4～6	▲ 13.2	41.7	▲ 21.0	▲ 21.1	▲ 8.3	▲ 15.7
7～9	▲ 18.4	41.6	▲ 13.2	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 23.6
10～12	▲ 2.7	44.4	0.0	▲ 10.5	▲ 11.1	▲ 2.7
H31.1～3	2.7	38.9	▲ 7.9	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 10.5
4～6	5.2	38.9	2.6	▲ 5.3	▲ 8.8	▲ 10.5
R1.7～9	▲ 13.2	38.9	▲ 10.6	▲ 15.8	0.0	▲ 16.2
10～12	▲ 23.7	33.3	▲ 5.4	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 20.0
R2.1～3	▲ 42.1	33.3	▲ 36.8	▲ 15.8	▲ 5.6	▲ 28.9
4～6	▲ 83.8	14.3	▲ 78.4	▲ 59.5	▲ 15.6	▲ 86.5
7～9	▲ 65.8	20.0	▲ 60.6	▲ 48.7	▲ 16.7	▲ 71.1
10～12	▲ 42.0	17.1	▲ 31.6	▲ 18.4	▲ 11.1	▲ 36.9
R3.1～3	▲ 42.0	22.9	▲ 23.7	▲ 13.1	0.0	▲ 36.8
4～6見通し	▲ 18.4	17.1	▲ 31.6	▲ 15.7	2.8	▲ 14.7



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・ コロナ禍で繊維関係の業界全体が業績悪化しているので既存の顧客からの受注や引き合いもほとんど無く自社の技術でできることを模索しているが、先の見通しが立たない。
- ・ 12月国のGoToキャンペーン中断してから売り上げが激減し、工場は週2程度の操業となり休業となった。2月中旬コロナの感染低下、ワクチンの期待から少しずつ受注が戻ってきたが、状況はコロナ次第となっている。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、繊維工業は非衣料分野が持ち直しているほか、眼鏡枠は受注が幾分上向いている例もみられるが、引き続き輸出の不振などから低調な生産出荷動向が続いている。一方、機械工業は、電子部品・デバイスで、自動車、5G関連需要の高まりから順調な生産出荷動向を維持。輸送機械も自動車需要の復活を受け、緩やかな回復に向かっている。

こうした中、今期（R3年1～3月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中、仕入単価（逆指数）で悪化した以外、横這い或いは改善傾向を示した。各項目をみると、売上高が前期▲42.0→今期▲42.0、仕入単価（逆指数）が前期17.1→今期22.9、採算が前期▲31.6→今期▲23.7、資金繰りが前期▲18.4→今期▲13.1、従業員数が前期▲11.1→今期0.0、業況が前期▲36.9→今期▲36.8となっている。また、先行き（R3年4～6月期）については、採算と資金繰りを除く4項目で改善予測となっており、今しばらく持ち直しが続くことが期待できる。

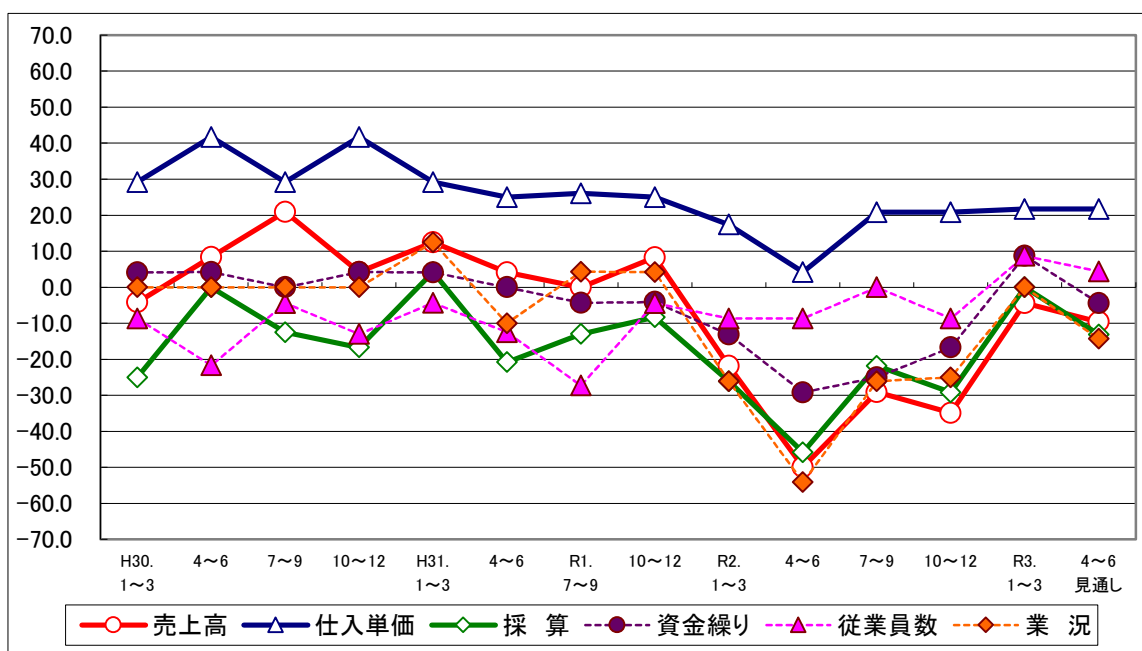
一方、新規設備投資の状況については、計画の13.2%に対し実施が7.9%と、実施が計画を下回った。また、先行き（R3年4～6月期）についても、何らかの投資を予定する企業が10.5%と、今期並みの投資活動が予想される。

最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「需要の停滞」で最も多く52.6%（1位～3位までに挙げた企業65.8%）を占めた。また、個別の見解としては、「コロナ禍で繊維関係の業界全体が業績悪化しているので既存の顧客からの受注や引き合いもほとんど無い」、「2月のGoToキャンペーンが中断してから売り上げが激減した」など、悲観的な見解が多くみられた。

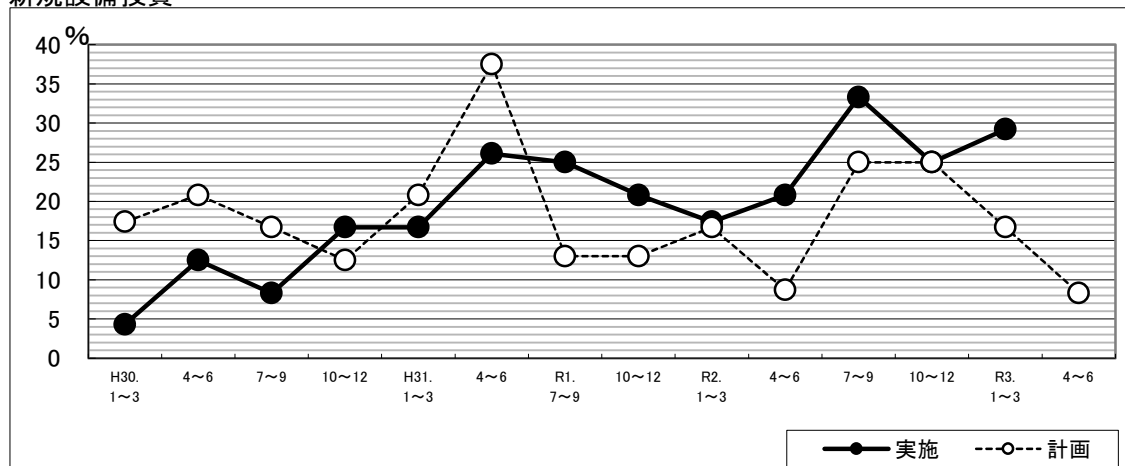
建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

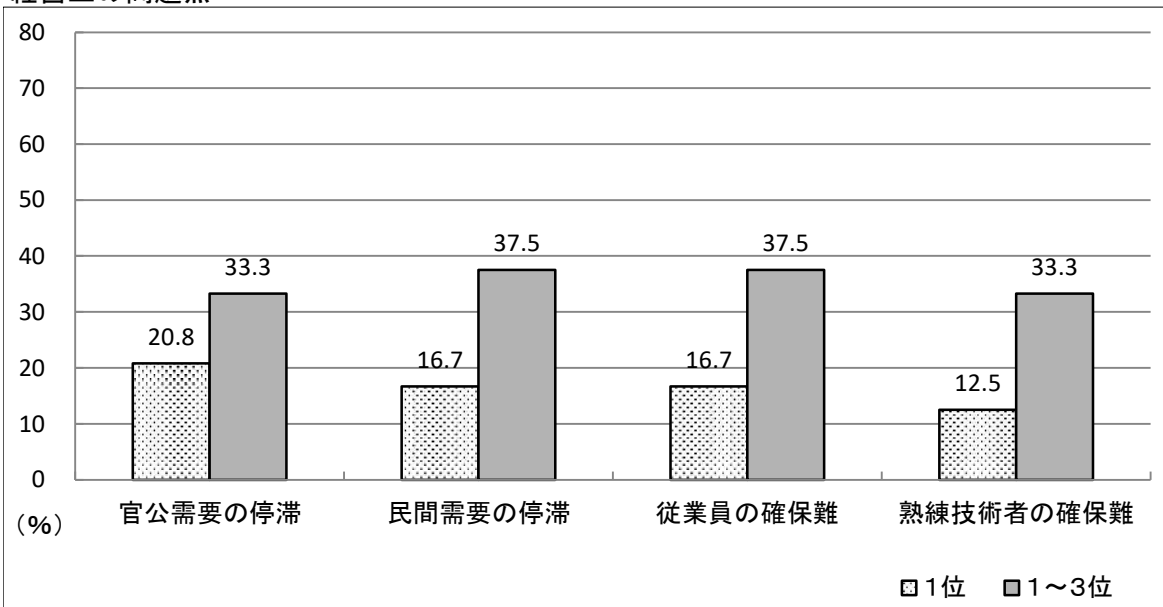
期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
H30.1~3	▲ 4.2	29.2	▲ 25.0	4.1	▲ 8.7	0.0
4~6	8.4	41.7	0.0	4.2	▲ 21.7	0.0
7~9	20.9	29.2	▲ 12.5	0.0	▲ 4.4	0.0
10~12	4.2	41.7	▲ 16.7	4.2	▲ 13.0	0.0
H31.1~3	12.5	29.2	4.2	4.1	▲ 4.3	12.5
4~6	4.1	25.0	▲ 20.8	0.0	▲ 12.5	▲ 10.0
R1.7~9	0.0	26.1	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 27.3	4.3
10~12	8.3	25.0	▲ 8.3	▲ 4.1	▲ 4.4	4.2
R2.1~3	▲ 21.8	17.4	▲ 26.1	▲ 13.1	▲ 8.7	▲ 26.1
4~6	▲ 49.9	4.2	▲ 45.8	▲ 29.2	▲ 8.7	▲ 54.1
7~9	▲ 29.1	20.8	▲ 21.8	▲ 25.0	0.0	▲ 26.1
10~12	▲ 34.9	20.8	▲ 29.2	▲ 16.7	▲ 8.7	▲ 25.0
R3.1~3	▲ 4.4	21.7	0.0	8.7	8.7	0.0
4~6見通し	▲ 9.6	21.7	▲ 13.1	▲ 4.4	4.4	▲ 14.3



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・ コロナ禍に加えて大雪になり、公共工事は発注も少なくなりそうなので、設備投資も慎重になる。
- ・ 新型コロナウイルスにより公共事業の減少が予想されるので、先行きに不安がある。
- ・ 新幹線工事の影響で、生コンや砕石、ダンプ等が不足している。生コンは1週間前の予約が必要で条件が悪化している。

建設業の景況

福井県内におけるR2年度（R2年4～R3年3月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で1,918億60百万円の前年同期比7.7%の増加、発注件数は同3,641件の同3.8%の減少となっている。これを主な発注者別でみると、独立行政法人等関連工事が635億1百万円の同6.3%増、県関連工事が503億25百万円の前年同期比4.1%減となっている。一方、住宅投資については、R2年4～R3年2月期までの11か月累計で、前年同期比19.0%減の3,590戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比8.7%減の2,137戸、貸家が同28.8%減の1,543戸となっている。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目のうち仕入単価（逆指数）を除く5項目で改善するなど、同業界の堅調な動向を裏付ける結果となっている。各項目別のDI値をみると、売上高が前期▲34.9→今期▲4.4、仕入単価（逆指数）が前期20.8→今期21.7、採算が前期▲29.2→今期0.0、資金繰りが前期▲16.7→今期8.7、従業員数が前期▲8.7→今期8.7、業況が前期▲25.0→今期0.0となっている。また、先行き（R3年4～6月期）については、仕入単価（逆指数）を除く残り5項目で悪化予測となっており、コロナ禍でも堅調を持続した建設業に僅かながら不安要素が増加している。

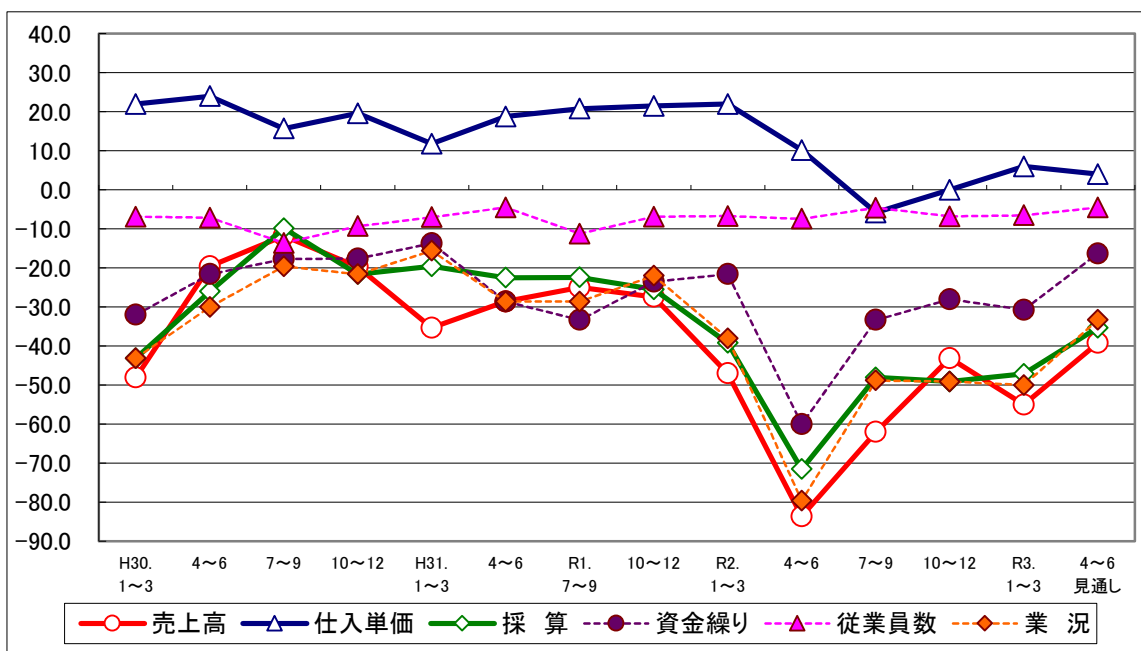
一方、今期の新規設備投資については、計画した企業16.7%に対し実施した企業が29.2%となり、堅調な動きを示した。ただ、先行き（R3年4～6月期）については、何らかの投資計画を持つ企業が今期同様の8.3%となっており、投資意欲の減退が懸念される。

最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「官公需要の停滞」で最も多く20.8%（1位～3位に挙げた企業33.3%）を占めた。次いで、「民間需要の停滞」、「従業員の確保難」が同率（1位に挙げた企業16.7%）で続いている。その他の見解としては、「新型コロナウイルスにより公共事業の減少が予想される」、「新幹線工事の影響で、生コンや砕石、ダンプ等が不足している」など、やや悲観的な声が聞かれている。

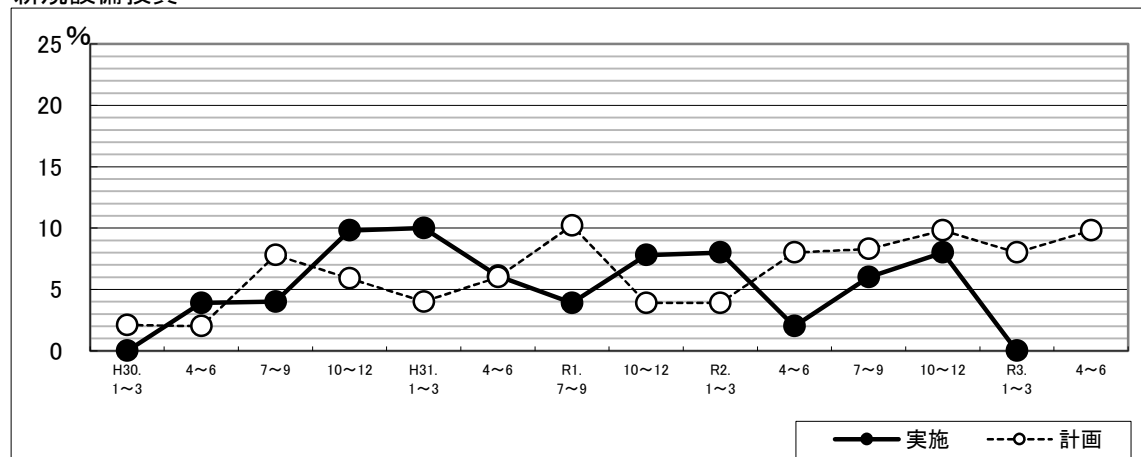
小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

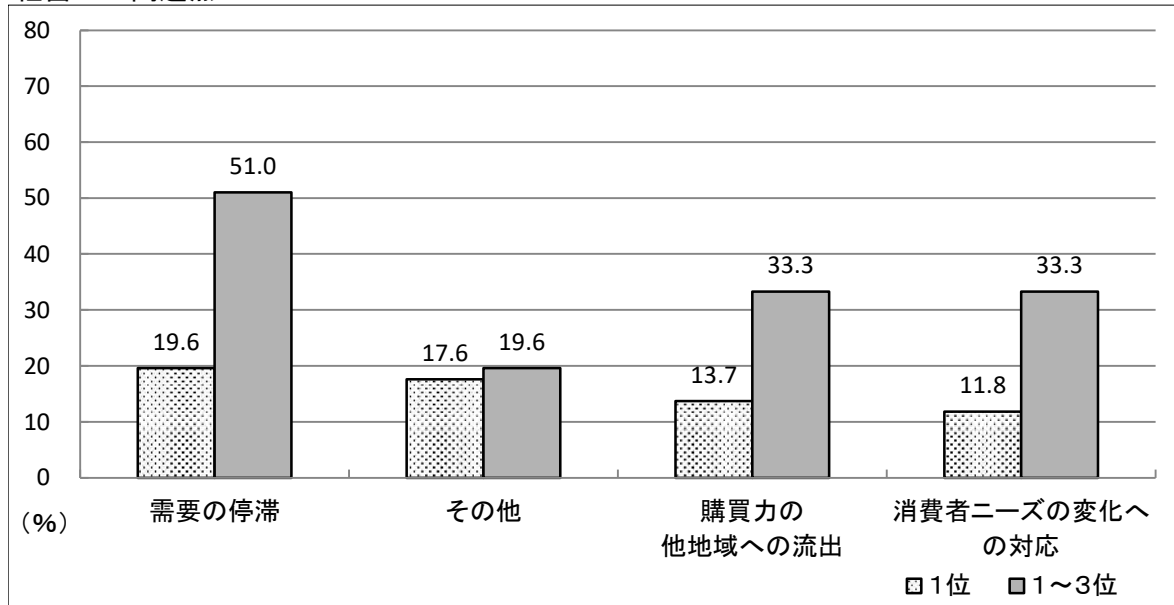
期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
H30.1~3	▲ 48.0	22.0	▲ 43.1	▲ 32.0	▲ 6.9	▲ 43.1
4~6	▲ 19.6	24.0	▲ 26.0	▲ 21.6	▲ 7.1	▲ 30.0
7~9	▲ 11.8	15.7	▲ 9.8	▲ 17.7	▲ 13.6	▲ 19.6
10~12	▲ 19.7	19.6	▲ 21.6	▲ 17.6	▲ 9.3	▲ 21.6
H31.1~3	▲ 35.3	11.8	▲ 19.6	▲ 13.7	▲ 7.0	▲ 15.6
4~6	▲ 28.6	18.8	▲ 22.5	▲ 28.6	▲ 4.5	▲ 28.6
R1.7~9	▲ 25.0	20.8	▲ 22.4	▲ 33.3	▲ 11.2	▲ 28.6
10~12	▲ 27.4	21.5	▲ 25.5	▲ 23.5	▲ 6.9	▲ 22.0
R2.1~3	▲ 47.0	22.0	▲ 39.2	▲ 21.6	▲ 6.7	▲ 38.0
4~6	▲ 83.6	10.2	▲ 71.5	▲ 60.0	▲ 7.4	▲ 79.6
7~9	▲ 62.0	▲ 5.8	▲ 48.0	▲ 33.3	▲ 4.6	▲ 48.8
10~12	▲ 43.1	0.0	▲ 49.1	▲ 28.0	▲ 6.8	▲ 49.1
R3.1~3	▲ 55.0	6.0	▲ 47.1	▲ 30.7	▲ 6.5	▲ 50.0
4~6見通し	▲ 39.2	4.0	▲ 35.3	▲ 16.3	▲ 4.5	▲ 33.3



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・コロナ禍の下で自社の業況も、需要の停滞もあり低迷している。早期のコロナ禍の解消が望まれる。
- ・コロナ禍で県外客がほとんどなくなり、県内客も少なくなっている。違う業種を開拓していったほうがよいのではと考えている。今の業種は設備維持の為の経費がかかりすぎる。
- ・雪の影響もあり冬の売上が減少。店舗にも被害があったので運転資金が心もとない。

小売業の景況

最近の小売商況を外観すると、新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの店舗で厳しい状況にあるが、食品スーパー、ドラッグストア、ホームセンターなどでは、巣ごもり需要やペイントアップ需要をキャッチし売上を伸ばす例もみられ、業種業態による業況格差も広がっている。参考までに、近畿経済産業局が公表する最近の県内大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）をみると、コロナ禍、衣料品などのお出かけ関連需要が年を通じ不冴えであったものの、食品関連やアウトドア用品、ドラッグ関連需要が盛り上がり、12月が前年同月比＋4.7%、R3年1月が同＋0.4%と堅調に推移している。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中4項目で悪化傾向となっている。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲43.1→今期▲55.0、仕入単価（逆指数）が前期0.0→今期6.0、採算が前期▲49.1→今期▲47.1、資金繰りが前期▲28.0→今期▲30.7、従業員数が前期▲6.8→▲6.5、業況が前期▲49.1→今期▲50.0となっている。また、先行き（R3年4～6月期）については、すべての項目で改善予測となっている。

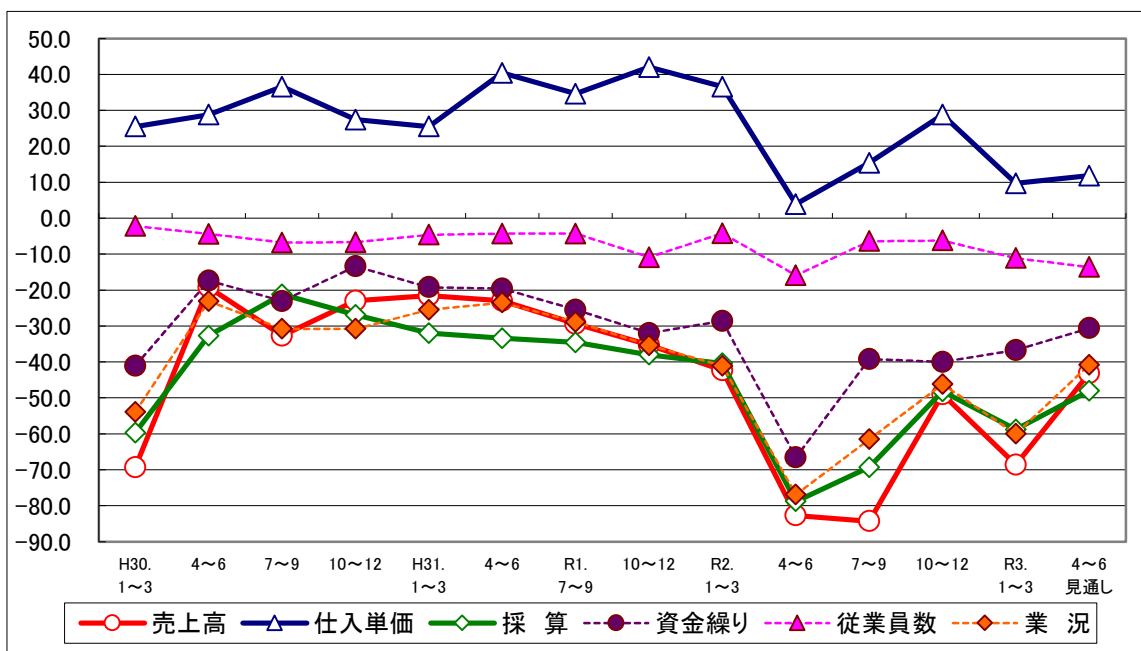
一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の8.0%に対し実施は0.0%となり、低調な投資動向となっている。先行き（R3年4～6月期）については、何らかの投資を計画する企業ウエイトが9.8%と、幾分の改善が見込まれる。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト19.6%、1位～3位までに挙げた企業51.0%となった。「その他」に関連する見解としては、「コロナ禍の下で自社の業況も、需要の停滞もあり低迷している」、「コロナ禍で県外客がほとんどなくなり、県内客も少なくなっている」など、コロナ禍での厳しい経営環境が読み取れる悲観的な声が多く聞かれた。

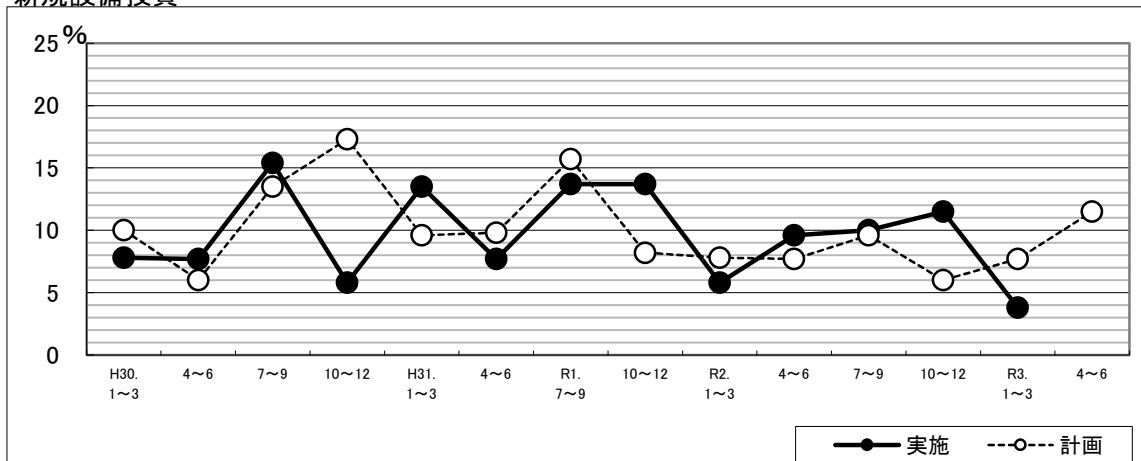
サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

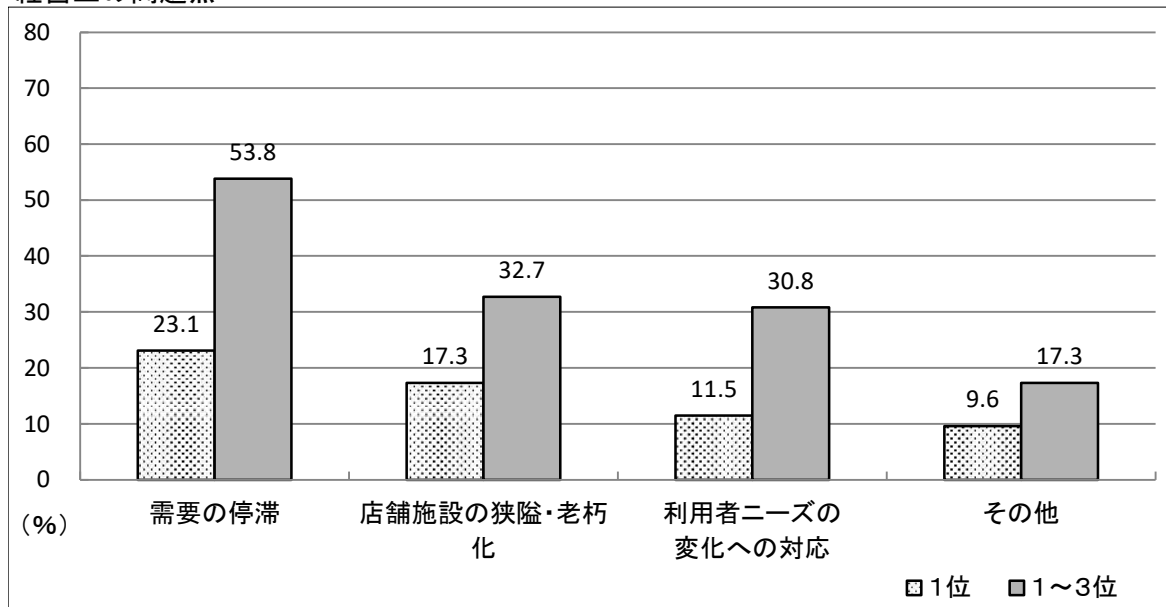
期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
H30.1~3	▲ 69.3	25.5	▲ 59.7	▲ 41.1	▲ 2.2	▲ 53.9
4~6	▲ 19.2	28.8	▲ 32.7	▲ 17.4	▲ 4.4	▲ 23.1
7~9	▲ 32.7	36.6	▲ 21.2	▲ 23.1	▲ 6.8	▲ 30.8
10~12	▲ 23.0	27.4	▲ 26.9	▲ 13.4	▲ 6.7	▲ 30.8
H31.1~3	▲ 21.6	25.5	▲ 32.0	▲ 19.2	▲ 4.6	▲ 25.5
4~6	▲ 23.0	40.4	▲ 33.4	▲ 19.6	▲ 4.3	▲ 23.5
R1.7~9	▲ 29.4	34.6	▲ 34.6	▲ 25.5	▲ 4.3	▲ 28.9
10~12	▲ 35.3	42.0	▲ 38.0	▲ 32.0	▲ 10.9	▲ 35.4
R2.1~3	▲ 42.3	36.6	▲ 40.4	▲ 28.6	▲ 4.2	▲ 41.1
4~6	▲ 82.7	3.9	▲ 78.8	▲ 66.6	▲ 15.9	▲ 76.9
7~9	▲ 84.3	15.4	▲ 69.3	▲ 39.2	▲ 6.4	▲ 61.5
10~12	▲ 49.0	28.8	▲ 48.2	▲ 40.0	▲ 6.2	▲ 46.2
R3.1~3	▲ 68.6	9.7	▲ 58.8	▲ 36.7	▲ 11.1	▲ 60.0
4~6見通し	▲ 43.1	11.8	▲ 48.0	▲ 30.6	▲ 13.6	▲ 40.8



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・GoToトラベル事業の停止により、宿泊事業所からの注文が減少している。
- ・GoToトラベルが年末より中止(延期)になっているため、ほとんど予約が入らない。
- ・コロナ感染症の終息が見えない中、県外のお客様の減少よGoToトラベル停止が重なり先の見通せない状況。

サービス業の景況

総務省が毎月実施する「サービス産業動向調査」によると、全国におけるR3年1月のサービス関連産業売上高は、28.8兆円で、前年同月に比べ11.1%の減少で、12か月連続の減少となった。減少した産業をみると、飲食店などを含む「宿泊業、飲食サービス業」（前年同月比42.4%の減少、12か月連続の減少）、娯楽などを含む「生活関連サービス業、娯楽業」（前年同月比23.2%の減少、71か月連続の減少）、鉄道などを含む「運輸業、郵便業」（前年同月比14.4%の減少、16か月連続の減少）等となっている。

こうした中、今回の景況調査をみると、DI値6項目中、仕入単価（逆指数）と資金繰りを除く4項目で悪化傾向を示している。ちなみに、項目別の指数を見ると、売上高が前期▲49.0→今期▲68.6、仕入単価（逆指数）が前期28.8→今期9.7、採算が前期▲48.2→今期▲58.8、資金繰りが前期▲40.0→今期▲36.7、従業員数が前期▲6.2→今期▲11.1、業況が前期▲46.2→今期▲60.0となっている。引き続き県内サービス業の厳しい経営環境がうかがえる。また、先行き（R3年4～6月期）については、4項目で改善予測となっており、同業界の持ち直しを期待したいところである。

一方、新規設備投資については、計画7.7%に対し実施が3.8%と、実施が計画を下回り、体調な投資動向となった。また、先行き（R3年1～3月期）については、何らかの投資を考える企業ウエイトが11.5%となり、投資マインドの幾分の盛り上がりが見られる。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」（1位に挙げた企業ウエイト23.1%、1位～3位までに挙げた企業53.8%）への指摘が最も多かった。また、個別の見解としては、「GoToトラベル事業の停止により、宿泊事業所からの注文が減少している」、「GoToトラベルが年末より中止(延期)になっているため、ほとんど予約が入らない」など、GoToトラベル停止による悪影響を嘆く声が多く聞かれた。

全国・福井景気動向 令和3年1月～3月（対前年同期比：DI値）

D I 値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別		売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
全国	全体						
	DI値	▲ 48.9	15.5	▲ 42.5	▲ 28.4	▲ 8.8	▲ 43.5
	製造業						
	DI値	▲ 45.6	24.6	▲ 39.4	▲ 24.7	▲ 10.4	▲ 40.6
	建設業						
	DI値	▲ 21.7	28.2	▲ 20.9	▲ 9.2	▲ 6.0	▲ 16.0
	小売業						
	DI値	▲ 50.2	10.7	▲ 43.5	▲ 27.6	▲ 6.0	▲ 44.6
	サービス業						
	DI値	▲ 61.1	8.9	▲ 52.6	▲ 39.0	▲ 11.1	▲ 55.9
福井	全体						
	DI値	▲ 49.1	13.1	▲ 38.7	▲ 22.7	▲ 4.0	▲ 42.6
	製造業						
	DI値	▲ 42.0	22.9	▲ 23.7	▲ 13.1	0.0	▲ 36.8
	建設業						
	DI値	▲ 4.4	21.7	0.0	8.7	8.7	0.0
	小売業						
	DI値	▲ 55.0	6.0	▲ 47.1	▲ 30.7	▲ 6.5	▲ 50.0
	サービス業						
	DI値	▲ 68.6	9.7	▲ 58.8	▲ 36.7	▲ 11.1	▲ 60.0

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

